

勝道上人の墓

柵の中には、輪王寺の基礎となった日光山の創建者である勝道上人（735-817）の墓がある。勝道上人は火葬され、遺骨は最初この谷の上流に埋葬され、その後、東照宮の建設直後の1620年頃に開山堂が建てられたときにこの場所に移された。

勝道上人の墓は、石の五輪塔造りになっている。五輪塔は現在、日本全国で一般的なお墓であるが、当初は真言と天台の密教の宗派によってのみ使用されていた。輪王寺は天台宗の寺院である。

五層の五輪塔は、5つの異なる形状を持つ5つの基本要素を表している。下から、立方体は地球を表し、球は水を表し、三角形は火を表している。三日月は風または空気を表し、上部の球状は空間を表している。この上部の形状は世界各地で異なり、日本では多くの場合、蓮のつぼみの形状になっている。

付近の墓は勝道上人の弟子達の墓である。